

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	協力的・参加的・体験的な学習を効果的に進めている実践事例
-------	------------------------------

1. 基本情報

都道府県名及び市町村名

富山県黒部市

学校名

黒部市立高志野中学校

学校のURL

<http://www.tym.ed.jp/sc238/>

2. 学校紹介

学級数

【通常の学級】1学年4学級、2学年2学級、3学年3学級

【特別支援学級】1学級

【合計】10学級

児童生徒数

【全生徒数】264人（平成23年11月30日現在）

（内訳：1年生109人、2年生73人、3年生82人）

学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校教育目標】

希望高く、創意に富み、心豊かなたくましい生徒の育成

【人権教育に関する目標】

一人一人が人間としてかけがえのない存在であることを自覚し、差別や偏見をなくすとともに互いに尊重し合い、好ましい人間関係を形成していこうとする心と態度を育てる。

人権教育にかかる取組の全体概要

学校の教育活動全てを通じて実践する、系統性を重視した指導計画の効果的実践
「学び合い」と「体験」を重視し、生徒相互が教え合い、認め合い、支え合う学習活動を積極的に導入する。また、道徳の時間においては、「主として他の人とのかわりに関すること」に重点をおき、項目を絞って授業を推進する。

生徒の自主性を尊重した指導方法の工夫

生徒会執行部が中心となって、各種ボランティア活動や人権集会等の企画・運営に携わることにより、他から承認される機会や自己決定の場を増やし、互いのよさや個性を認め合えるようにする。

人権教育推進に関する点検・評価アンケートの教職員・児童生徒・保護者への実施及びその結果の分析活用

定期的に「人権意識チェック表」(教職員用)、「生活振り返りカード」(生徒用)を活用し、内省の機会を設けるとともに、人権への意識を高める。

家庭・地域との連携、校種間連携

地域でのボランティア活動(老人ホーム・保育所訪問、ボランティアフェスティバル等への参加)を推進したり、地域から講師を招聘し講演会を開催したりすることにより、共生の精神を高める。

3. 特色ある実践事例の内容

人権集会

- ・ 取組のねらい(目的)

人権を身近なものとしてとらえ、協力的・参加的・体験的な活動を通して、自他の人権を尊重していこうとする意識を高める。

- ・ 取組を始めたきっかけ

生徒会執行部が「人権週間」について関心をもち、「人権の日」に集会をもつことで、全校生徒に人権について考えてほしいと企画した。

- ・ 取組の内容(具体例)

(1) 校紀委員会からの提言

(2) 人権作文の発表

(3) いじめに関する朗読劇「クラスの悩み」と意見交換

(4) 全校合唱

- ・ 取組の主体や実施体制

生徒会執行部、校紀委員会、3学年有志(劇参加者)、3学年合唱パートリーダーが中心となり、活動に取り組んだ。また、保護者・地域住民にも参加を呼びかけた。

- ・ 取組の頻度

年に1回

- ・ 取組を実施するにあたって課題となったこと、及びそれに対して講じた工夫
一般生徒が受け身にならないよう、全校合唱を取り入れたり、朗読劇の内容を生徒にとって身近な「いじめ」に関するものとし、事後に意見交換の場を設定したりすることで一人一人が集会へ参加しているという意識を高めるようにした。

各種講演会の実施

- ・ 取組のねらい(目的)

地域在住の講師を招聘し、それぞれの視点からの講演を聴くことにより、自他の人権を尊重していこうとする意識を高める。

- ・ 取組を始めたきっかけ



人権集会(校紀委員会提言)



全校合唱

生徒が広い視野に立って「人権」を捉えられるように多方面から講師を招くこととした。

- ・ 取組の内容（具体例）

(1) 社会福祉法人「あいじ福祉会」岩井恵澄理事長
里親経験に基づく「いのち」の大切さの講演

(2) 富山県総合教育センター研究主事
コミュニケーションスキルを高めるロールプレイ

演習と講演

(3) 富山県車椅子バスケットボールクラブ
堀田良明代表 他3名

車椅子バスケットボールの体験活動
パラリンピックDVD鑑賞、講演

(4) NTTネットワークコミュニケーション

携帯電話・メールでの人権侵害の具体例の提示と、その対策方法について

- ・ 取組の主体や実施体制

全校生徒と保護者・地域住民を対象に実施した。

- ・ 取組の頻度

学期に1～2回

- ・ 取組を実施するにあたって課題となったこと、及びそれに対して講じた工夫

自分の身近な問題であることを意識してもらうために、講演会の中に演習や体験活動を取り入れた。



岩井恵澄理事長・講演



車椅子バスケットボール

4. 実践事例の実績、実施による効果

人権集会

- ・ 取組の実績

校紀委員会からの提言では、毎月生活振り返りカードを利用して重点的に取り組んできた「あいさつ」「言葉遣い」の向上について、「人権」を意識させながら今後さらによりよいものを目指せるよう示唆することができた。また、人権作文の発表は、家族に障害者がいる生徒が家族の大切さについて述べ、聴く者の心を打った。そして、劇「クラスの悩み」では、場面にあったスライドをスクリーンに映し出し、朗読劇にすることで、劇後に余韻が残り、生徒がいじめについて真剣に考える時間となった。さらに、意見交換の場を設定したことで、人権の侵害を生み出す背景や解決のための方策を考えることができた。最後の全校合唱「あなたに会えて・・・」では、この日の人権集会で感じたことを胸に、人と人との出会いの素晴らしさや、自分自身や相手を大切にしようという歌詞の意味をかみしめながら生徒全員で歌いあげることで、人権に対する意識の共有化を図ることができた。

- ・ 取組が効果をあげた実際の事例

集会後に書いた生徒の感想は、集会での各プログラムの意義をしっかりと捉え、

身近にある様々な「人権問題」について、改めて向き合い考えることができたという肯定的なものがほとんどだった。また、全校生徒で心を一つに合唱できる現在の学校の環境に誇りをもつとともに、よりよい学校を目指そうとする意識を向上させた。学校評価アンケートの結果にも、それが表れている。

・取組の実施から得られた知見・経験により改善を図った事項

前年度の人権集会では、劇が「人権問題について知る」ことを目的としたクイズ形式のものであり、楽しい要素を取り入れながら人権に関する知識を得られるよう工夫されていた。しかし、今年度は、生徒会執行部が「真剣に人権と向き合う機会にしたい」と、身近にある「いじめ」を題材とした朗読劇を企画した。学級での道徳の時間とはまた異なり、非常に強く生徒の心に響くものがあったと思われる。

各種講演会の実施

・取組の実績

岩井恵澄理事長の講演では、これまで何人もの里親として経験してきたことを話の中心に据え、自分の命を大切にすると同時に、時間や他人の心を大切にして生きていくことの重要性を話された。広い心で温かく「里親」という役割を果たしてこられた経験に基づく言葉には、生徒の心を動かす強さが秘められていた。コミュニケーションスキルを高めるロールプレイ演習では、級友とのつきあい方について、保健委員会の生徒によるモデリングの後、班ごとにロールプレイを通して、相手の気持ちに共感する活動や自分の気持ちを素直に伝える活動を行った。コミュニケーションのスキルを身に付けることが身近な自分の問題として捉えられ、実践してみようとする意欲に結びついた。また、車椅子バスケットボールクラブの方の講演会は、階段や段差のある体育館までの介助を生徒たちが行うことから始めた。慣れない介助に緊張している生徒に優しくユーモアたっぷりに話しかけていただき、自然と場が和やかになった。しかし、男子バスケットボール部員が車椅子バスケットボールを体験する場面では、力を抜かず気迫溢れるプレイを披露された。最後に、それぞれの方が肢体不自由になったいきさつや、車椅子バスケットボールとの出会いについて話された。障害を乗り越えて自分の目標に向かって前向きに生きていこうとする心の強さに、生徒たちは感動していた。「携帯・パソコン安全講座」では、相手の人権を侵害している身近な事例をいくつも挙げて説明していただいた。一步間違えば加害者になるかもしれない危険を具体的に知るよい機会になったと考える。

・取組が効果をあげた実際の事例

コミュニケーションスキルの講習会や携帯・パソコン安全講座は、生徒の好ましい人間関係づくりにすぐに役立った。そのことにより、自分とともに他者の大切さを認め、自他の人権を守ろうとする意識が高まった。また、ボランティアへの関心が一層高まり、多くの生徒が参加している。

・取組の実施から得られた知見・経験により改善を図った事項

生徒の目線に立って人権についてより深く考えさせるために、今年度は、朗読劇の内容を身近な「いじめ」の設定にした。また、全校合唱の曲目を、「あなたに会えて・・・」から「あすという日が」に変更した。この曲は、東日本大震災の被災直

後に避難所で仙台市立八軒中学校の吹奏楽・合唱部が歌ったことで注目を浴びた曲である。

5. 実践事例についての評価

人権集会

・取組についての評価及びそう評価する理由

十分な成果を上げることができたと考える。盛りだくさんな感があるのは否めないが、一つ一つが生徒自身の手で作られたものであり、それが生徒の心に深く響いていると思われる。「たくさんのことを考えさせられる集会だった」と生徒自身が評価している。また、人権の日に集会を開催することにより、人権問題が日本だけでなく世界的な課題であることに気づくことができた。さらに、人権の日の趣旨を知ることにより、人権に関する知的及び法的理解を深める場として成果があった。

・保護者や地域住民からの反応

生徒たちが様々な角度から人権について真摯に向き合い、考えを深めている姿に好意的な意見が多かった。

・現在、実施にあたって課題と感じていること

3年生にとっては進路決定を間近に控えた大切な時期でもあり、特に企画・運営の中心となる生徒会執行部の生徒には負担が過重とならないよう、教師側の配慮や支援が必要であると思われる。特に、劇の台本の形式になっている資料はほとんどないので、劇の内容をどう選定していくのかが大切になる。

各種講演会の実施

・取組についての評価、及びそう評価する理由

十分な成果を上げることができたと考える。講師が地域在住の方であるということだけで、生徒には親近感が湧いたようだった。そして、それぞれの立場から、生徒に分かりやすく「人権」について示唆してくださった。人生を自分の力で切り開いてこられた方の講演は、決して押しつけでなく、生徒たちの心を動かした。また、スキル学習では、これまでに人間関係で何かしらうまくいかないことがあったであろう生徒にとってトラブルから自己を守る「知識」と「手段」を学ぶよい機会となった。

・保護者や地域住民からの反応

保護者や地域住民の方たちも、一人の人間として講演を聴き、感銘を受けておられる。このような場を提供できたことに大きな意義があると思われる。

・現在、実施にあたって課題と感じていること

これまで、講師は学校独自で探してきたが、人権問題等に詳しい講師の紹介を気軽に相談したり、講師謝礼等の調整をしたりする機関があれば、さらに充実した講演会が開催できるのではないかと考える。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

黒部市立高志野中学校

特色として、人権集会と地域在住の方を招聘した研修会・講演会が挙げられる。

人権集会は生徒会執行部を中心に企画される。特に、いじめに関する朗読劇の後、生徒全員への意見交換の場を設定していくことなどを通して、一人ひとりの人権集会への参加意識を高めようと工夫をしている。

生徒向けの人権研修会については、地元在住で「里親」の役割を果たしてこられた方の話、車椅子バスケットボールの体験、コミュニケーションスキルを高めるロールプレイの実技、携帯電話やメールでの人権侵害等についての対策方法など、多くの地域の人々の協力を得て進めている。

参加的・体験的な学習形態を積極的に取り入れることにより、人権問題が身近で自分に関わる問題であることを実感させようとしている視点は重要である。